

## 令和3年度全国学力・学習状況調査結果（概要）について

浜田市教育委員会

### 1 調査の概要

- (1) 調査実施日 令和3年5月27日（木）
- (2) 調査の対象  
 国・公・私立学校小学校6年生（特別支援学校含む） 全児童  
 国・公・私立学校中学校3年生（特別支援学校含む） 全生徒  
 ※ 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級在籍者のうち、下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒や特別支援学校の教科の内容の指導を受けている知的障がい者である児童生徒は、調査対象としない。
- (3) 浜田市での調査対象児童生徒数 ・小学校 392名 ・中学校 382名
- (4) 調査の内容  
 ① 教科に関する調査 小6：国語・算数 中3：国語・数学  
 ② 質問紙調査 児童生徒に対する質問紙調査 学校に対する学校質問紙調査

### 2 各教科の平均正答率

昨年度の調査が中止となったため、「差」については一昨年度（令和元年度）との比較とした。

#### (1) 小 学 校

	平均正答率（%）					
	浜田市	島根県	全国	差(市-県) <-昨年>	差(市-国) <-昨年>	差(県-国) <-昨年>
国 語	61.0	63.0	64.7	-2 <0>	-3.7 <-1.8>	-1.7 <-1.8>
算 数	64.0	67.0	70.2	-3 <0>	-6.2 <-1.6>	-3.2 <-1.6>

#### (2) 中 学 校

	平均正答率（%）					
	浜田市	島根県	全国	差(市-県) <-昨年>	差(市-国) <-昨年>	差(県-国) <-昨年>
国 語	61.0	62.0	64.6	-1.0 <-4.0>	-3.6 <-3.8>	-2.6 <0.2>
数 学	51.0	53.0	57.2	-2.0 <-5.0>	-6.2 <-7.8>	-4.2 <-2.8>

### 3 浜田市の結果

#### (1) 各教科の分類別集計結果の概要

- ※ ○：市が県を2ポイント以上、上回るもの  
 -：市と県の差が2ポイント未満のもの  
 △：市が県を2ポイント以上、下回るもの

##### ① 小学校国語

学習指導要領の領域	対象設問数 14	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
話すこと・聞くこと	3	72.1	74.0	-1.9	-
書くこと	2	53.1	55.9	-2.8	△
読むこと	3	40.1	43.9	-3.8	△
言葉の特徴や使い方	6	68.8	70.0	-1.2	-

##### ② 小学校算数

学習指導要領の領域	対象設問数 16	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と計算	4	58.3	61.4	-3.1	△
図形	3	45.5	52.0	-6.5	△
測定	3	72.7	72.7	0	-
変化と関係	3	71.6	73.6	-2.0	△
データの活用	5	70.6	73.6	-3.0	△

##### ③ 中学校国語

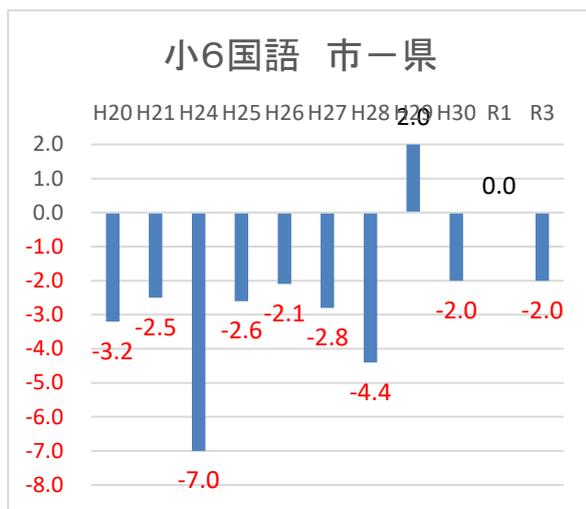
学習指導要領の領域等	対象設問数 14	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
話すこと・聞くこと	3	79.0	79.6	-0.6	-
書くこと	3	53.2	55.7	-2.5	△
読むこと	4	42.7	44.5	-1.8	-
伝統的言語文化・特質	4	72.3	72.3	0	-

##### ④ 中学校数学

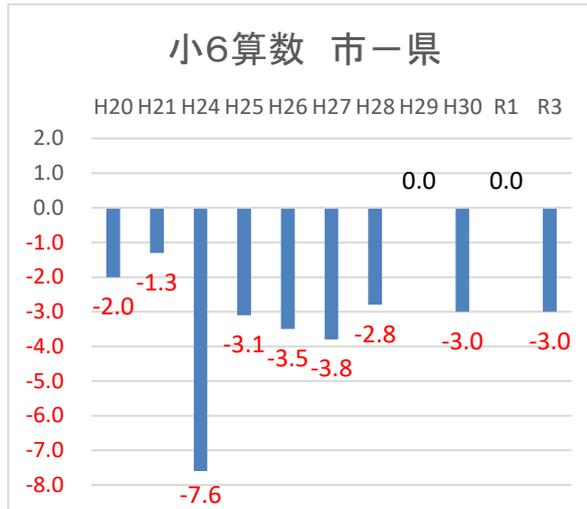
学習指導要領の領域	対象設問数 16	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と式	5	55.7	60.1	-4.4	△
図形	4	42.7	45.0	-2.3	△
関数	3	50.0	53.5	-3.5	△
資料の活用	4	51.2	52.6	-1.4	-

## (2) 平均正答率の県との差の推移

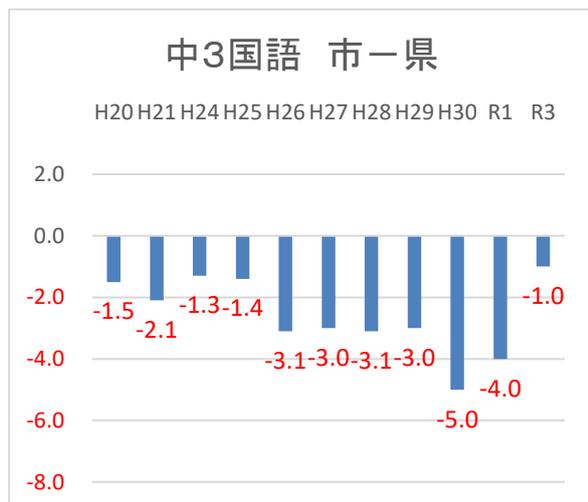
小6国語



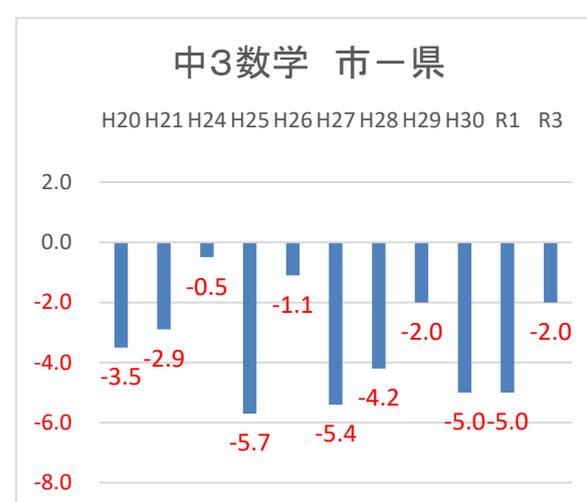
小6算数



中3国語



中3数学



## (3) 対象学年の県との差についての経年比較

現中学校3年生

学年・学力調査種別	国語	算数・数学
H30全国学力(小6)	-2.0	-3.0
R1県学力(中1)	-0.3	-3.9
R2県学力(中2)	-1.1	-2.8
R3全国学力(中3)	-1.0	-2.0

現小学校6年生

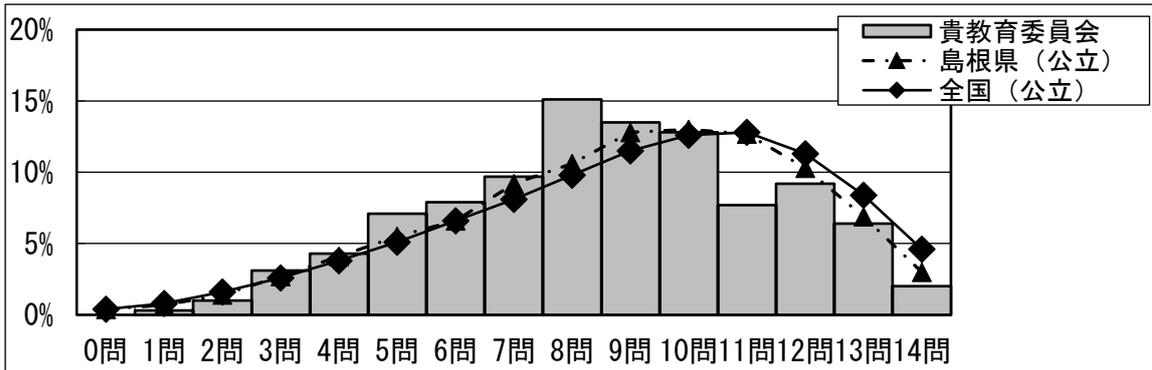
学年・学力調査種別	国語	算数
R2県学力(小5)	-0.4	-4.3
R3全国学力(小6)	-2.0	-3.0

## (4) 問題形式別の県との差

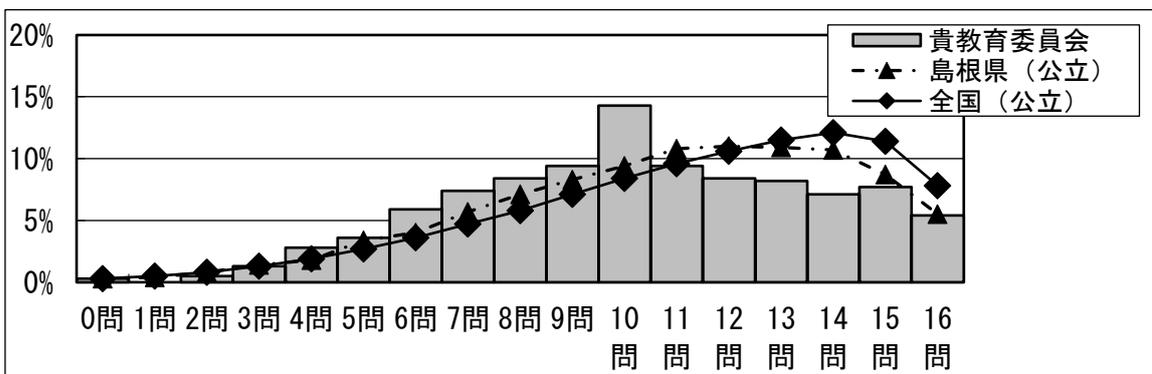
	小6国語	小6算数	中3国語	中3数学
選択式	-2.8	-3.1	-2.0	-3.5
短答式	1.7	-2.7	0	-2.4
記述式	-4.2	-3.9	-1.1	-1.8

(5) 正答率分布

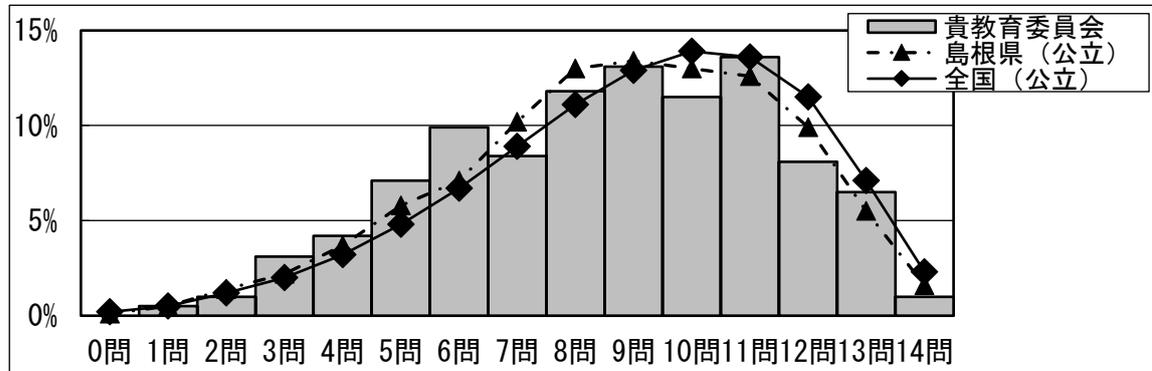
小6 国語



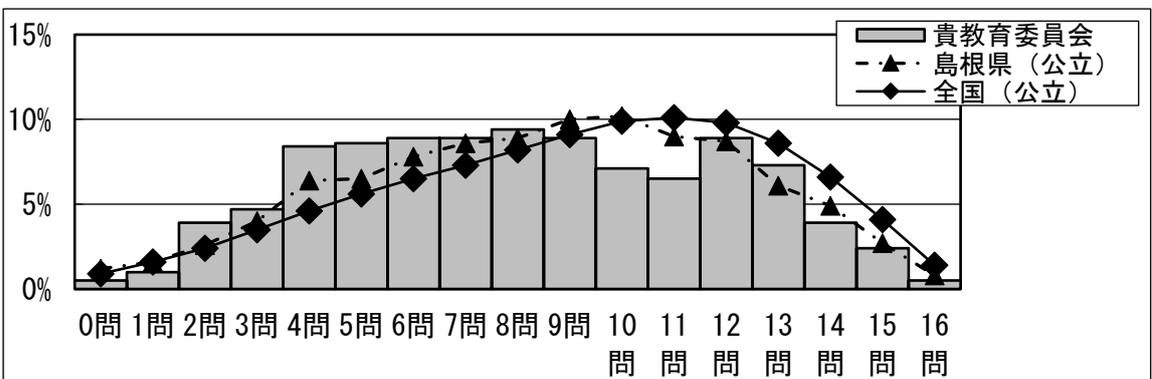
小6 算数



中3 国語



中3 数学



## (6) 教科に関する結果の概要

### ○ 国語について

小学校6.1% (県6.3%)、中学校6.4% (県6.7%)。小学校は、全ての領域で県平均を下回り、特に「書くこと」「読むこと」に課題がある。中学校においても、「書くこと」に課題がある。

### ○ 算数・数学について

小学校算数6.4% (県6.7%)、中学校数学は5.1% (県5.3%)。

小学校は、「測定」以外の領域は県平均を下回り、特に「図形」について課題がある。中学校は、全ての領域で下回り、「数と式」「図形」「関数」について課題がある。

### ○ 平均正答率の県との差の推移について

小学校では、国語、算数ともに前回調査結果を下回り、平成30年度と同様な状況に戻っている。中学校では、平成30年度以降、県平均との差が少なくなり、上向いてきている。

### ○ 調査対象学年の県との差の経年比較について

小学校6年生については、算数について県との差が減少している。中学校3年生については、県平均よりも低いながらも、小学校6年生時よりも国語、算数・数学ともに差が減少しており、改善傾向にある。課題はあるが、学習集団としての育ちは認められる。

### ○ 問題形式別の県との差について

小学校では特に記述式(「求め方を説明する」とか、「理由を記述する」、「自分の考えを書く」等の「資料等の情報から理由や自分の考えを説明したり、記述したりする」こと)に課題が見られる。しかし、無回答率は記述式問題の全て(国語3問、算数4問)において県平均を下回っている。

- ・ 例：国語： 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。

目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

- ・ 例：算数： 30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く

二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と式を書く。

中学校では、国語・数学共に選択式及び数学の短答式において課題がある。記述式においては、無回答率が県よりも高く(国語4問中4問、数学5問中3問)なっている。

### ○ 正答率分布について

小中学校共に高正答率者の割合が少なく、中学校の数学については低正答率者の割合が高いことが課題である。

※ これまで各学校が行ってきた知識・技能の定着に向けた取組を更に充実させていくと共に、思考力・判断力・表現力(例えば、課題について資料等から必要な情報を選択し、根拠を明らかにしながら理由や自分の考えを説明したり、記述したりする力)の育成を含めた、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に地道に取り組んでいく必要がある。

※ 中正答率層の児童生徒が高正答率層へと移行できるようにすること。また、低正答率層が中正答率層へ移行することができるように、少人数指導等をはじめとした個に応じた指導を充実していく必要がある。

## (7) 児童生徒の意識調査から

### ○ 「自分には良いところがあると思う」児童生徒の割合

小学校は75.6% (R1年度: 83.3%) で前回調査よりも下回った。中学校では76.1%

(R1年度：75.3%)であり、前回調査を若干上回った。県との比較では、小学校が1.0%、中学校が3.9%下回っている。自己肯定感を育んでいく取組の充実が必要である。

○ 「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合

小学校は78.1%(R1年度：79.8%)で、前回調査よりも若干下回った。中学校では64.4%(R1年度：67.9%)で前回調査を下回っている。県との比較では、小学校が0.6%、中学校が2.7%下回っている。教育活動全体を通じた計画的なキャリア教育の推進が必要である。

○ 「1日あたり1時間以上家庭学習をする」児童生徒の割合

小学校は61.9%(R1年度：68.2%)、中学校では、55.0%(R1年度：67.9%)であり、前回調査を大きく下回った。県との比較では、小学校が-2.9%、中学校が-8.6%で、特に中学校で差が出ている。

○ 「家で自分で計画を立てて勉強をする」児童生徒の割合

小学校は68.6%(R1年度：72.0%)、中学校は58.1%(R1年度：67.9%)で特に中学校では10%近く前回調査を下回った。県との比較では小学校は-5.3%、中学校が-9.2%であった。

○ 「普段、1日当たり2時間以上テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする児童生徒の割合

小学校は53.1%で、県との比較は5.8%、全国との比較では3.7%上回っている。中学校では、61.8%で、県との比較は9.8%、全国との比較では4.8%上回っている。

※ 児童生徒が夢や目標をもって取り組んだり、自己肯定感を育んだりすることが可能となるように、キャリア・パスポートの取組を核としながら、キャリア教育を全教育活動に計画的に位置づけ、教育課程を編成して実践をしていく必要がある。

※ 家庭での生活について、特に家庭学習時間やメディア接触時間について、自ら時間をコントロールし、計画的に取り組む力を育てることを重点とし、家庭との連携も図っていく必要がある。

(8) 学校質問紙(校長の自己評価)から

① よくできていると認識された項目

- ・ 学校として業務改善に取り組んでいる

小中学校共に100%であった。県との比較では小学校が7.7%、中学校は7.4%上回り、全国と比較しても小学校2.5%、中学校は3.6%上回っている。

- ・ 校内研修で、児童生徒自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動について学ぶことを行っている

小学校は87.5%で県との比較では12.4%、全国との比較は5.1%上回っている。中学校は77.8%で県との比較では11.5%、全国との比較は0.1%上回っている。

- ・ 児童生徒は学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えをしっかりと伝えることができている

小学校は87.5%で県との比較では9.3%、全国との比較は5.1%上回っている。中学校は88.9%で県との比較では4.6%、全国との比較は2.3%上回っている。

② 不十分であると認識された項目

- ・ 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った

小学校は56.3%で県との比較では-15.8%、全国との比較は-25.9%。中学校は44.4%で県との比較では-26.1%、全国との比較は-33.7%であった。小中学校共に大きく下回っている。

### ③ 小学校と中学校で評価が分かれた項目

- ・ 授業において自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている

中学校では88.9%で、県との比較は+24.7%、全国との比較は+13.3と上回っている。これに対して、小学校は56.3%で、県との比較は-1.1%、全国との比較は-12%と下回っている。

児童生徒意識調査の同様な質問に対しても、中学3年は64.1%で、県との比較は+0.3%、全国との比較は+2.1%と上回り、小学6年は59.4%で、県との比較は-1.1%、全国との比較は-4.1%と下回っており、校長の評価を裏付けている。

- ・ 知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだし解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を計画的に取り入れた

中学校では77.8%で、県との比較は+17.8%、全国との比較は+10.2と上回っている。これに対して、小学校は50.1%で、県との比較は-13.9%、全国との比較は-23.0%と下回っている。

児童生徒意識調査の同様な質問に対しても、中学3年は61.3%で、県との比較は-3.7%、全国との比較は±0%であり、小学6年は55.8%で、県との比較は-7.0%、全国との比較は-11.4%と下回っている。

以下、小学校と中学校で評価が分かれた項目で、上記の状況と同様な傾向にある項目のみを示す。

- ・ 各教科の授業などで、調べたことや考えたことを1200字（小学校は800字）程度でまとめさせたことがある
- ・ 国語、算数・数学の指導として、補充的な学習をした
- ・ 国語、算数・数学の指導として、発展的な学習をした

※ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修は実施されている。研修を行ったことが、実際の授業で生かされるようにしていくことが必要である。特に、小学校においては、このことについての取組を推進していく必要がある。

※ 算数・数学が好きであるとする児童生徒を増やしていくために、学習することが身近な生活と結びつくような授業、追究したくなるような授業を行っていく必要がある。

※ 小学校においては、補充的な学習や発展的な学習についての取組を充実していく必要がある。

※ 各学校においては、業務改善に取り組み、児童生徒に向き合う時間や研修・教材研究の時間を生み出す努力も行っている。このことに対し、行政が行える支援を検討し、実施していく必要がある。

## 4 今後の取組の方向性について

### (1) 「知識・技能」の確かな定着への取組の継続

中学校においては改善傾向が見られるものの、小学校及び中学校の数学については、課題がある。各学校が、基礎的学力育成のために行っている取組（基礎学力テスト、書き取り会、計算会、家庭学習の工夫、家庭学習の定着、プリント配信システム（タブレットドリル版）の活用、指導・支援が必要な児童生徒への指導の時間の確保等）は、今後も継続して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を確かなものとしていく。

## (2) 授業改善、「思考力・判断力・表現力」の育成

記述問題等で求められている「思考力・判断力・表現力（課題解決のために、資料等から解決に必要な情報を集め、理由や自分の考えを論理的に説明したり、記述したりする力）」や、「学びに向かう力」等の育成については、更なる指導改善が必要である。教育委員会が授業改善のための方策として示している「子どもの声でつくる授業」を核としながら、各学校で進めている「主体的で対話的で深い学び」を実現していくための取組を継続していくとともに、授業構想段階から指導主事に関わるなどの授業づくりへの支援を充実させていく。

なお、算数・数学については、依然として課題である。系統的な指導が特に必要な教科であり、小学校段階から分かる授業、数学的な活動を通して数や図形概念等の構築や思考力・判断力・表現力等を育成し、算数好きな児童を育てていく必要がある。教育委員会が行っている各学校年 2 回以上の訪問指導への教科希望は算数が多いことから、担当指導主事を中心に授業構想段階から関わり、算数の授業づくりに取り組んでいく。

協調学習として取り組んでいる知識構成型ジグソー法は「思考力・判断力・表現力」を育成するための手法として適していると考えている。このことは、昨年度実施した生徒の意識調査からも生徒が主体性や協働性を実感しやすいことが明らかになっている。したがって、協調学習指定校の取組を各小中学校に広げていく。

また、課題を解決するために目的をもって読み、情報を収集・整理して自己の考えを構成していく授業づくりについては、浜田市教育研究会国語部会と共に取組を推進していく。そして、これまで継続してきている学校図書館活用教育の取組も一層推進していく。

これまでの4年間は、中学校に課題が見られたことから、指定校を中学校としてきた。今後は、小学校を指定校とし、日常的に授業改善の取組が推進されるように検討をしていく。

## (3) 「補充的・発展的な学習」、「夢や目標をもって取り組む指導（キャリア教育）」「学級経営」の充実

中学校における「補充的・発展的な学習」の実施は進んできた。小学校においてもこの指導の充実を図っていくことが必要である。「発展的な学習」の指導を工夫・実施し、このことにより、高正答率者を増やしていく。また、「補充的な学習」も同時に実施し、中正答率者層へと引き上げていく。このためには、授業時間中の少人数指導等の工夫とともに、授業時間以外の取組が可能となるような時間的なゆとりも必要となる。このことに対する方策を校長会とも連携しながら検討を行っていく。また、授業時間も含め「補充的・発展的な学習」には、GIGA スクール構想により整備した一人一台端末をはじめとした ICT 機器の活用も有効である。個別最適化された学びの実現に向かって、研修や授業例の提供等に取り組んでいく。これらのことにより、学びに向かおうとする児童生徒の知的好奇心を刺激し一層伸ばしていくことができるようにしていく。

「子どもの声でつくる授業」を実現していくには、「落ち着いて安心して学習に向かえる環境・学級づくり」や「夢や目標をもって取り組む指導」等の確実な積み重ねが重要となる。安心して学習に向かえる環境・学級づくりについては、生徒指導担当指導主事とも連携を図り、各学校の取組を支援していく。また、県教育委員会の指定で実践を積み重ねてきたキャリア・パスポートの研究実践を基盤としながら、キャリア教育が組織的に展開されるように小中連携教育とも関連させながら取り組んでいく。

この小中連携教育では、メディア接触や家庭学習に対する課題を解決していくために、児童生徒が自ら時間をコントロールしながら取り組む力を育てていくことを重点として取り組んでいく。